

常松大谷遺跡

つねまつおおたにいせき

& 常松菅田遺跡

つねまつすがたいせき

玉作り工房 発見!?



管玉を作る途中の資料が出土しました。石に溝を切って(板チョコみたいですね)、管玉の大きさに整えていきます。

常松菅田遺跡では、弥生時代中期(今から約2200年前)の玉作り跡が見つかりました。どうやらここでは、管玉という石のアクセサリを作っていたようです。

くだたま



N山です。



管玉完成品



M村です。

管玉に孔をあける石の針先(約2cm)もありました!



丁寧に土を削り、玉作りの際に散らばった破片を探します。見つかったところには竹串を指して、目印にします。



S台です。



いくら丁寧に調査しても、小さな破片は見逃してしまうもの。掘った土をふるいにかけて、2~3mm位の破片も逃さずゲット!



下坂本清合遺跡

しもさかもとせいごういせき



壊れやすいので慎重に!!

左は動物の骨です。牛の骨と考えられる骨がたくさんみついています。周囲の畑を耕していた牛でしょうか。

川の中からざっくざく

下坂本清合遺跡では、鎌倉時代から江戸時代に流れていた川の跡を掘り下げているところです。川の中からは様々なものがみつかり、担当者は当時の人々の暮らしを想像(妄想?)しながら調査を進めています。



右の写真は黒漆の塗られた漆器(しっし)のお椀です。現在4点みついています。おもてなしの道具でしょうか? 花柄の模様の描かれたものもありました。



左の写真のように、おかしな形の木製品もたくさんみつかりました。何に使われたのでしょうか? みなさんも想像してみてください。



鳥取西道路の遺跡を掘る!

第51号 2013年7月24日

鎌倉時代や室町時代といった中世には石塔がたくさん造られました。鳥取西道路の遺跡調査でも五輪塔と呼ばれる石塔がみつかっています。五輪塔っていったい何でしょう?



路傍の塔



路傍の塔(五輪塔)

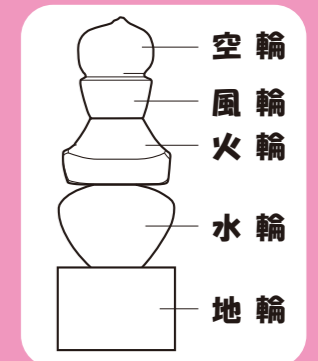
中世の人々の営みは、遺跡の調査で、建物の跡、たんぼの跡、お祀りの跡などとして発見されます。でも昔の人の痕跡は意外と私たちの身近に…。例えば、写真のような鳥取市野坂の県道沿いにひっそりとたたずんでいる五輪塔などがあります。

五輪塔は、下から地輪・水輪・火輪・風輪・空輪の5つの部分からなります。これは、宇宙が5つの大きな元素からなるという、インドの古い考え方がもとになっています。この考え方が中国の仏教に取り込まれ、五輪を絵で表しました。日本へは、平安時代に弘法大師が密教として、絵や考え方を伝えました。

やがて、日本で立体の五輪塔が造られるようになるとともに、仏様を表すようになりました。

この五輪塔の形は、密教で最も偉い仏様の一人である胎蔵大日如来が、人々を救う姿をあらわしています。ただの墓標ではありません。写真の五輪塔は中世の終わりごろに造られたもので、地輪がなくなっています。

皆さんも、ご近所にひっそりとたたずんでいる五輪塔などの中世の文化財に触れ、昔の人の想いを感じてみませんか(@▽@)



(公財) 鳥取県教育文化財団 調査室
〒680-1133 鳥取市源太12番地
TEL: 0857-51-7553
FAX: 0857-51-7550
メールアドレス: tottori-kyobun@kyobun.sakuratan.com

発掘通信

空梅雨も明け、夏に突入しました。今年の夏はたいへん暑いですね。発掘現場は、とても暑いです(〜)。みなさんも十分に水分をとって、熱中症には気を付けてくださいな。

鳥取県教育文化財団 調査室



東桂見遺跡

ひがしかつらみいせき

もうすぐ夏休み



祝 1区の調査が終了しました!

1区の調査が今月で終了しました。調査の結果、調査区の西側にある「とっとり出合いの森」へ通じている道路の下が浅い谷になっていて、川が流れていたらしいことが分かりました。川は流れが滞って湿地のようになっていたようで、腐食した植物を含む黒っぽい色をした層が堆積していましたが、その中からは弥生時代後期から古墳時代前期（1～4世紀）の土器が多量に出土しました。土器はあまり磨滅しておらず、大きな破片も多いので、この谷に面した丘陵の上で暮らしていた人々が捨てたものなのでしょう。残るは4区の調査。頑張るぞ～。



こんな土器も見つかりました

流路内から土器が見つかった様子

良田中道遺跡

よしだなかみちいせき

なるほど



弥生時代の護岸施設を確認しました!

調査区の北端で木製構造物を伴う弥生時代の溝が見つかりました（写真1）。この木製構造物は溝の岸に沿って板材を打ち込んで造ったもので、横長の板材を縦板で挟み込む構造になっています。おそらく、溝の岸が崩れるのを防ぐためにつくられた護岸施設だと思います。

それらを取り除くと、打ち込まれた丸杭や木の皮を用いた別の木製構造物が見つかりました（写真2）。この木製構造物の用途はまだわかりませんが、溝に直交するように造られている点が写真1の構造物と異なるので、護岸施設ではなく、水をせき止めるために造られた堰の可能性も考えています。

水の流れを何とか制御しようと努力した当時の人々の苦勞が目に浮かぶようです。



縦に打ち込んだ板

横長の板

(写真1)

新しい段階の木製構造物



杭

木の皮

(写真2)

古い段階の木製構造物

金沢坂津口遺跡

かなざわさかつぐちいせき

& 松原田中遺跡

まつばらたなかいせき



ココのお米は美味だった!?



青線は弥生時代の田んぼの区画です

弥生時代の田んぼ（南東から）

弥生時代の田んぼは、今の区画と向きが違います。奥にある山を基準に自然の地形にそって畦を作っていたようです。微妙な土地の起伏を上手に利用して田んぼを作るその技術にはビックリ!!

弥生人あらわる!

といっても人骨のことではありません（・v・）。田んぼの一部で足あとを発見しました。足の大きさは約22センチ。ちょっと小さいですね。田んぼで働いていた弥生お母さんのものでしょうか。

今の地面から2mほど掘り下げたところで、弥生時代中期（今から2200年ほど前）の田んぼを発見しました。「弥生時代」は田んぼでお米を作り始めた時代。このあたりは、前号までお伝えしたように、その頃からずっとお米を作り続けてきた土地だったようです。ながーい歴史のあるこの土地で作られたお米。いったいどんな味がするのでしょうか（^_^）。

夏真っ盛りの今は、周辺の田んぼの稲も青あおと元気よく育っています。弥生人たちもこんな風景をみて秋の収穫を楽しみにしていたのかもしれないね。



現代人 (男性 35歳)	現代人 (女性 7歳)	弥生人
27.5cm	23.0cm	

松原田中遺跡 (1区)

まつばらたなかいせき

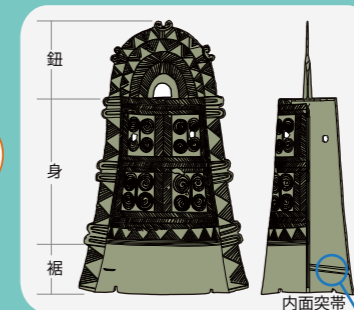
銅鐸の破片が出土!

いよいよ調査が本格化した松原田中遺跡では、耕作土の中から銅鐸の破片が出土しました。

銅鐸は、弥生時代に作られた釣鐘型の青銅器（上図）で、鳥取県内では約20例知られています。米子市淀江町の稲吉角田遺跡からは、樹木に吊り下げられた銅鐸のようなものが描かれた土器も出土しています。

銅鐸の用途には、「収穫祭のときに祖先をたたえるため」、「豊作祈願祭に祖先の霊を招くため」といった説があります。

内側にあるふくらみは「内面突帯」といいます。内部に吊り下げた「舌」が内面突帯にあたって音が鳴りました。この季節、涼やかな弥生の音色をよみがえらせてみたいですね。



内面突帯



松原田中遺跡 (1区)

このあたりに相当します



ここがふくらんでいます

銅鐸の破片 (内面)